広報誌　PLUS

第 4 号　発行日 ： 令和6年3月1日
発 行 者　生活介護事業所プルスペース

～ 振り返りと今後 ～

主任支援員　佐藤和也

「生活介護事業所プルスペース」開所から早くも1年が経過しようとしています。開所から相談に来られる方の殆どが強度行動障害を有する自閉症のある方であり、多くは進路先でうまく活動に参加できないという理由でした。私たちスタッフは発達障害、特に強度行動障害のある自閉症支援に関しては、前職での経験が大きな土台となっており、新しく立ち上げた事業所でもその経験を活かした支援を展開しています。相談から契約に繋がった利用者の方々も、当事業所での新しい環境に次第に慣れていき、楽しく活動参加できるようになってきています。

しかし、相談に来られる方のニーズは日中活動の場というよりは、生活の場を望んでいる方が多く、GHを展開していない私たちにはニーズを満たすことができないという大きな課題が明らかとなりました。福祉の経験が長い私ですが、時代の変化とともにニーズが変わってきていることを実感しているところです。

入所施設での生活を希望されている方もいらっしゃいますが、権利条約に批准している日本は、国連の障害者権利委員会に入所施設で暮らしている方々の多さを問題視されている状況に加え、深刻な福祉離れによる人材不足も重なり、強度行動障害を有する自閉症のある方の居場所がなくなってきていることも実感しました。もちろん重度の行動障害を有する自閉症のある方を受け入れておられる事業所も存在するのですが、人材不足により十分な支援又はサービスを提供できていないのが現状ではないでしょうか。人手不足は今後もさらに加速していくことが予測されており、厳しい現実が目の前にあります。

正直、私たちの事業所も現在利用されている方のニーズに十分対応できていないということも事実です。しかし、人手不足を言い訳とせず、職場環境の改善や、業務効率化、スタッフ1人ひとりの資質向上を目指し、利用者のニーズに沿った支援を展開していくだけでなく、居場所のない利用者にも手を差し伸べることができるように努めていきたいと思います。そして、日中活動だけでなく生活全般をサポートできる体制作りを今後の課題として取り組んでいきたいと思います。

まだまだできたばかりの事業所ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

～ 看護だより ～

暖かい春の日差しを感じる頃となりました。昨年から新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となりましたが、その後も感染が続きインフルエンザも季節を問わず流行しています。

位置づけが変わってもウイルスの特性が変わるわけではありません。今まで同様に手洗い、うがいを行いながら、必要に応じたマスクの着用やアルコールでの消毒の習慣を継続していきたいと思います。

看護師　吉田 安子

（有）万 葉 堂
生活介護事業所
プルスペース